

はりっしも探索

Harishshimo
ほっこりスポット



みずすまし水田の魅力と研究活動

滋賀県立大学大学院
博士後期課程
森井清仁



自然観察会で説明をする森井さん

■はじめまして。私は滋賀県立大学の大学院生で、針江で生物の調査・研究をさせていただいております。すでにご存知の方が多いと思いますが、針江には、みずすまし水田と呼ばれるビオトープがあります。みずすまし水田では、淡水魚をはじめとした生き物の保全が実施されており、多くの絶滅危惧種が暮らしています。ここで暮らす絶滅危惧種を例に挙げると、カスミサンショウウオ、ナゴヤダルマガエル、ハッタミミズ、クロゲンゴロウなど書ききれないほどです。そのなかでも、特に珍しく貴重な生物は、スジシマドジョウ類です。

みずすまし水田では、ともに琵琶湖水系固有種（亜種）であるオオガタスジシマドジョウとピワコガタスジシマドジョウという2種のドジョウが繁殖しています。かつては、両種とも琵琶湖周辺に広く生

息していましたが、現在ではごく限られた場所で見つかっておりません。そのため、環境省により絶滅危惧種IB類に指定されています。とくに、ピワコガタスジシマドジョウは、現在も繁殖している場所がみずすまし水田しか確認されておらず、みずすまし水田は本種の絶滅を防ぐうえで極めて重要な役割を持っています。

そのため、私はピワコガタスジシマドジョウがなぜこれほど減ってしまったのか、そしてどうすれば増えるのかについて、みずすまし水田を舞台に、様々な方に協力していただきながら研究しています。これまでの研究の成果の一部は、国内外の学術誌に論文として出版され、少しずつ研究は進展しています。出過ぎた物言いかもかもしれませんが、貴重な生物が多く生きるみずすまし水田を、今後も維持・あるいは発展させていくことは非常に意義深いことだと考えています。

水辺のいまむかし



水辺の生き物や植物が
季節の移り変わりと命の大切さを
そこに暮らす人々に教えてくれた



■昭和30年代、子ども達の遊び場は正伝寺であつた。寺の南側は沢だったのでセリが生い茂り、そのセリの上に乗って探検だといって上流に進むのだ。今の子ども達からは考えられない遊びである。頭上には、藤の木が実をつけ、当時の湧き水は今の何倍もあつたと記憶している。各家庭には舟があることが多く、小池川に並んで浮いていた。夏休みには、小学生皆で舟に乗って、竹竿で漕いで琵琶湖で毎日泳いだり、しじみ取りや魚つかみをしたことを憶えている。

魚は、四季によってとれる魚が違う。春は、ピラ（アブラムツ）の産卵があちこちで見られた。瓶もうじをつけておくだけで、餌なしでもたくさん獲れた。また、琵琶湖岸の葦原に鯉や鮒が産卵で遡上してきており、モリをもって田舟で獲りに行くのだ。魚つかみ名人になりたいと、朝から夕まで水辺で遊んでいた。

夏はなんといってもアユの遡上は見事なもので、追い網で父と獲ったのが懐かしい。また、稲刈りが終わり、北風が吹くころには田舟の下でピワマスが産卵を始める。50センチくらいの大物があちこちにいた。冬は、内湖（中島）へ行き、小糸網で正月用の昆布巻きのオイカワを獲った。そして、命に感謝しながら家族みんなで命を大切にいただいた。

一年を通して、小池川や琵琶湖湖岸で魚とりに没頭していた私の少年時代であったが、今はその魚や景観を守る立場になったことが感慨深い。水辺の生き物や植物が、季節の移り変わりと命の大切さをそこに暮らす人々に教えてくれた。水辺には昔と変わらぬ虫が心を和ませてくれている。

あの頃にタイムスリップするのが、なんとも心地よい。

針江区 田中 義孝



令和の最初の「はりっしも」は、祝第10号

針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会 会長 足立 亨

■「はりっしも」のネーミングは、^{さっそう}颯爽とした“はりえ&しもふり”というイメージでしょうか。音楽の強弱記号フォルティシモに似た語感？当協議会の発足前後からの広報紙を平成27年から地域向けの内容をパワーアップして第10号になります。

紙面は、当協議会の副会長でもある針江・霜降の両区長さんの水辺景観への思い、高島市重要文化的景観整備活用委員会の先生方や水辺景観にかかわりのある方々からの寄稿、役員のみなさんからの季節の話題や地域情報などなど、豊かな湧水と多様な生物が存在するこの地域を大切にしたいという願い、外部からのあたたかいまなざしとメッセージが寄せられています。また、幾度か紙面のメインを飾るみずみずしいカバタのイラストやカット絵は、針江在住の宮田美津子さんの水彩画。全体の編集・デザインは同じく針江の前田典子さんです。毎号、区民に限定配布するだけではもったいない出来映えです。地域外の方々には生水の郷委員会ホームページでご覧いただけます。<http://harie-syozu.jp/>



◆重要文化的景観に選定された際に重要な構成要素として認定されているカバタ（45件）などを保存修理・修復する場合は、経費の補助を受ける制度があります。

◆まだ国の認定を受けていないカバタや文化的建造物等も今後の調査検討により追加認定が可能です。

◆「保存修理」、「追加認定」をご希望の方は、当協議会の役員までご相談ください。

◆針江・霜降の大川や周辺の水辺環境整備に、高島市から当協議会に交付された国の助成金が活用されています。

2019年度 針江・霜降の水辺景観まちづくり協議会 役員
会長 足立 亨 副会長 清水裕之（針江区長）青木 博（霜降区長）
〔針江〕高田一雄 田中義孝 三宅 進 高橋正通 北野俊朗
〔霜降〕山川茂樹 山川 隆 明政勝治 海東 弘